

JPAIS/JASMIN International Meeting 2013

JPAIS 財務担当役員：田名部元成

2013年12月18日に、ミラノにあるボッコニーニ大学において、JPAIS/JASMIN International Meeting 2013が開催された。本稿では、本会議の運営に携わった立場から、この会議の趣旨や歴史、当日の様子について報告する。JPAISは、情報システム学の国際的組織である Association for Information Systems (AIS) の日本支部 (Japan Chapter) として、2004年12月に設立が認められた団体である。JASMINは、AISの提携組織 (Affiliated Organization) となる旨の了解覚書を2005年にAISと締結しており、JASMINとJPAISは、これまでに密接な関係を維持しながら、わが国の経営情報学の国際的認知度を高める活動を行ってきた。AISが主催する国際会議 International Conference on Information Systems (ICIS) は、毎年12月に開催されるが、JPAIS/JASMIN会議は、ICIS公式の併設会議として2008年以來毎年運営されている。

表1 JPAIS/JASMIN 国際会議の開催状況

回	開催年	開催国・都市名	発表件数
1	2008	フランス・パリ	10
2	2009	米国・フェニックス	7
3	2010	米国・セントルイス	5
4	2011	中国・上海	8
5	2012	米国・オランダ	7
6	2013	イタリア・ミラノ	15

これまでのJPAIS/JASMIN国際会議の開催状況は、表1に示すとおりである。近年、参加者数が伸び悩んでいたのが、今回の会議で、発表件数が過去最多の15となったのがわかる。実は、ICISとしても過去最高の1537名の参加者があったとのことである。正確に数えたわけではないが、ICISに参加する日本人も過去最多であったと思う。JPAISとJASMINは、日本におけるIS研究を世界に向けて発信し、ISコミュニティにおける日本のプレゼンスを高めることをねらいとしている。今回の会議で、日本からの参加者をこれまでより多く動員できたことは、JPAISとJASMINの目標に一步近づいたとも言えるが、一方で、ICIS全参加者に占める日

本人の割合は、多く見積もっても2%に達しない状況であり、本来の目標達成への道のりは遠いと言わざるを得ない。

従来、JPAIS/JASMIN国際会議は、JPAISの役員を中心として、ほぼそと運営してきたが、今回は、会議の充実を狙って、7名からなる実行委員会を組織し、ソーシャルメディアを使っての広報と参加しそうな人への直接勧誘を行った。また、今回、社会情報学会 (SSI) から後援をいただき、SSI会員向けメーリングリストで会議開催案内をアナウンスしていただいた。今後は、JPAISからIS関連学協会やIS関連研究会にも積極的に声をかけていこうと思う。

今回の会議は、上述したとおり、これまでの会議とはいくつか異なる点がある。最も大きな違いは、冊子体の予稿集を刊行したことである。近年、どこの学会でも、予稿集は、電子化の方向に向かっているが、今回は、宣伝として配布することをねらいとして、あえて紙ベースの予稿集を制作した。82ページからなる冊子体25部をスーツケースに入れてミラノまで運搬するのは正直なところ大変だったが、ICISの会場でJPAIS/JASMIN会議参加者以外の研究者に本会議の宣伝として予稿集を配布することができた。これがきっかけで、日本で行われているIS研究に興味を持ってもらい、それが共同研究に発展したり、JPAIS/JASMIN会議への参加につながることを期待したい。

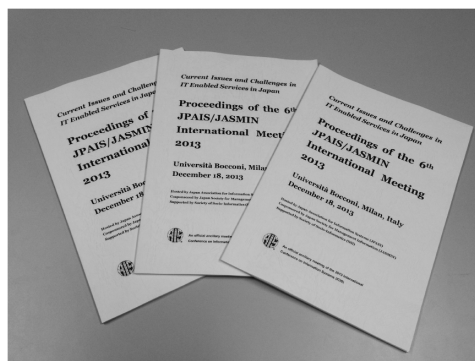


写真1 JPAIS/JASMIN 国際会議 2013 予稿集

会議は、昼の12時半から午後6時半まで、4つの時間区分に分割され、一つの部屋で進められた。想定した発表件数を大幅に超えたため、今回の1件あたり持ち時間は、質疑応答込みで20分と、学会報告としてはやや短めとなってしまった。次回からは、部屋の複数予約、あるいは長時間予約も検討すべきかもしれない。しかし、一つの部屋で発表が行われる例年のJPAIS/JASMIN会議の良さは、参加者全員が、すべての発表内容を共有でき、お互いがどのような研究を行っているのかがわかるということにあることから、できれば一つの部屋で行うことを検討したい。ちなみに、JPAIS/JASMIN国際会議が行われている同一時間帯に、KrAIS（AISの韓国支部）がIT企業と共催する会議が、5つの部屋を使ってパラレルで行われていた。関係者に聞いたところでは、参加者数は50人規模とのことであった。

最初のセッション1では、3件の報告が行われた。

1. Hiroki Tomizawa, Tetsuya Uchiki, A Concept of the Simulation for Social Context Analysis Based on the Difference of Adaptability to the Market Information
2. Hiroshi Takahashi, Analyzing the Influence of Investment Environments on Investors' Behavior through Agent-based Modeling
3. Masaki Tanaka, Setsuya Kurahashi, An Analysis of Customer Retention Rates Using Time Series Data Mining Techniques

ここでは、シミュレーション分析、エージェントベースモデリング、時系列データマイニングなど手法提案やその応用といった、やや数理よりの発表が行われた。

つづく、セッション2では、4件の発表が行われた。

1. Yasuhiro Sasaki, Masaaki Kunigami, Atsushi Yoshikawa, Takao Terano, Persona Design Method: Investigating What They Feel about Business Leaders
2. Motonari Tanabu, Yoshiki Matsui, Social Simu-

lation and Its Methodological Implications for IS Research

3. Tetsuya Uchiki, The Japanese Situation of "Logi-
calization" at Information Systems Design
4. Jaehyun Park, Richard Boland Jr., Youngjin Yoo,
Discovering the Meanings of Design in IS: Re-
views and Future Directions

ここでは、何らかの意味でデザインに関係する発表が行われた。情報システムのデザイン、情報システムのデザイン科学的研究など、近年のICISで取り上げられることの多くなってきた話題も登場している。

そして、20分程度のコーヒープレイクを挟んだ後、セッション3が行われた。

1. Shiro Uesugi, The Use of IT in Rural Amateur
Agriculture—A case from rural Japan—
2. Michiko Matsushita, Necessity of Ethical Educa-
tion in Software Industries: the Case of Vietnam
and Nepal
3. Mikako Ogawa, How to Provide Menu Informa-
tion: Legislation and Fieldwork in Los Angeles
4. Hikaru Kondo, Aki Nakanishi, Daisuke Sugihara,
Comparative Study between Japanese CSIRTs
and Carnegie Mellon Model: A Case of a CSIRT
in a Japanese Company

このセッションでは、日本の農業に対するITの適用、ベトナムとネパールのソフトウェア産業、食品情報に対する米国でのフィールド調査、セキュリティインシデント対応チームの日米比較など多様な話題が取り上げられた。

最後のセッション4では、次の4件が報告された。

1. Hirotohi Takeda, Information Systems Sakoku?
Why is IS Research from Asia So Few and Far
Between?
2. L. G. Pee, Mitigating the Risks of Negative Elec-
tronic Word of Mouth: The Role of Marketing
Management

3. Yasuo Kadono, Scheme Design of a New Social Research on IT Management
4. Masaaki Hirano, Speculating on Efficacy of IT Support on Learning

なぜ日本からのIS研究が少ないかというJPAISとJASMINの問題意識と共通する話題、ネガティブなeロコミの取り扱い方に関する実証研究、ITマネジメントに対する研究提案、学習教育に対するIT支援のあり方など、このセッションでも興味深いトピックが報告され、質疑応答も白熱した。

6時間にも及ぶ会議は、予定通り行われ無事終了した。発表件数は15件だったが、20名ほどの参加者を得ることができた。次のJPAIS/JASMIN国際会議は、ニュージーランドのオークランドで開催予定のICIS2014に合わせて開催される予定である。経営情報学会からの多くの参加を期待したい。なお、JPAIS/JASMIN国際会議に参加するには、AISの会員となりICISの参加登録を必要がある。詳しくは、www.aisnet.orgを参照のこと。また、JPAISやこれまでのJPAIS/JASMIN国際会議の情報については、www.jpais.orgを参照されたい。



写真2 JPAIS/JASMIN国際会議2013の成功を祝して

参考：JPAIS/JASMIN国際会議2013実行委員会

平野 雅章	早稲田大学	実行委員長
田名部元成	横浜国立大学	プログラム委員長
内木 哲也	埼玉大学	
松下 倫子	関東学院大学	
折田 明子	関東学院大学	
小川美香子	東京海洋大学	
太田 敏澄	元・電気通信大学	

以上